

ごろの思いから生まれた。

知識ゼロから

グラフィックデザイナーだった経験も生かして8年前に起業、厳選した茶葉を何日もかけ水でいれる高級茶を生んだ。百貨店での売れ筋で1本50000円はする。今では日本航空の国際線ファーストクラスでも飲まれている。東日本大震災で売り上げが半減するピンチもあった。将来性を評価

ハートは起業の母

してくれた金融機関の支援もあり2012年度にようやく黒字化した。



お茶の楽しみ方を変えた吉本さん(東京の三越銀座店)

共感が開く新天地

1に苦しむ母子を見た。高女性社長は1人だけだ。昔インドを旅した時、校を出て知識ゼロから大学男性以上に起業へのハート探石場で働く人々の貧しいや企業を訪ね歩き、技術開ドルが高く、周囲の理解を得にくい面もある。借金を発に10年以上かかった。一人息子を育てながら事業化背負わないか、危ない、結婚した方が幸せでは……。にこぎつけ、山崎製パンなどに製品を納める。心配する両親を前に白木夏子(32)は5年前、泣きながら訴えた。「3年だけ挑めるとはいえ女性はまだ戦さず、ダメだったら結婚でも何でもするから!」

アシアで挑む

アシアに新天地を求め、女性も出てきた。平野未来(30)は12年秋にシンガポールで会社を設立しスマー トフォン向け写真共有アプリを展開する。東南アジアの若い女性は顔写真を携帯にアップロードする。その独特な美意識に目を付け、写真を飾る機能

「食の安全を願う母親としての思いが経営の基本にある」。そつ話す岡田久幸

(50)は竹から抗菌剤や食品添加物をつくるタケックス・ラボ(大阪府吹田市)を02年に始めた。高校時代の2年近い入院生活で、化学物質アレルギーで118社あったうち、京・港)という会社を興しジュエリーをつくる。世界を飛び回り自分でダイヤモンドなどを仕入れる。適正な代金で現地の人と直接取引する「フェアトレード」

敬称略

(関連記事を電子版に▼Web刊↓紙面連動)